

★私とユメリア物語★

「私とユメリア徳重物語」「冠バッジのエピソード」というPR部からの募集の呼びかけに作文8件、冠バッジイラスト6点のご応募をいただきました。心より感謝申し上げます。50号と51号に分けてご報告します。

ユメリアと私 川村辰子（サポータークラブ協力会員）

一番嬉しかったことは、ユメリア徳重がオープンして緑区役所の支所が利用できるようになったことです。図書館の利用やお稽古の場所を借りたこともあります。まだまだ利用は継続中です。

サポータークラブの協力会員になり、初めて施設利用を支えて下さる方々の存在を知りました。セタやユメリアツリーのイベントの参加についてお声掛けいただき、仲間とともにミニコンサートが開催できることが何より楽しみです。ユメリア徳重が身近な存在であることは確かです。

これからもよろしくお願いします。

楽しいまちづくりの拠点を目指して夢と希望を語ろう 大橋公雄（サポータークラブ会員）

ユメリア徳重の成り立ちをひも解いてみたいと思います。緑区の行政区は広域で人口の増加も続き、緑区東部地域は何かと不便でした。地域の東部まちづくりの会が中心となり住民懇談会などを開き、東部地域に支所、保健所、図書館、児童館、地区会館などの住民が安心して集える場所が欲しいとの要望が出されました。

当時の市長は耳を傾けられて、住民の夢と希望を語るワークショップに60名が集まり3年間の議論を重ねた末、現在のユメリア徳重の複合施設が建設されることになりました。ワークショップのアドバイザーを務めた名古屋市立大学の鈴木賢一先生は行政と住民の協働の施設として指導されました。地域の夢と希望が実った複合施設では、住民も運営管理に参画することを目的にサポータークラブが生まれました。住民も協働して行うことは、名古屋市で初めてでした。初代会長に私が押されて、仲間と共に知恵と工夫を出し合い楽しい活動をしてきました。

2022年に緑生涯学習センター〈なごや学〉で徳重のまちづくりの講座を開いた鈴木賢一先生は、「名古屋市の中で職員と協力してよくやっている。こんなに長く続く活動に驚き、感動している。中学生や高校生が活躍するようになると楽しみです」と語りました。サポータークラブの日頃の活動が、評価されて今日まで続けてこられたことを喜びたいと思います。今後ユメリア徳重が明るく楽しいまちづくりの拠点になることを願っています。

出会いは生きる力 日比野章好（サポータークラブ会員）

会社を退職して私の年金生活は始まりました。朝起きて夜寝るまでの時間をどう過ごすか、家で過ごす時間も多くなり、それでも趣味のカメラを持って出かける時間も多くなりました。

たまたまユメリア徳重に立ち寄った時、サポーター募集と書かれた貼り紙に目が留まりました。以前から仕事をリタイアしたら何か私にできるボランティア活動があれば参加したいと思っていたので、その場で活動内容を伺い入会することにしました。

サポータークラブの中では多くの出会いがあり、その中の一つが園芸＝花との出会いです。最初は花を育てるというより、きれいに咲いた花をどうレイアウトするのかの方に興味がありました。そんな時ユメリア徳重の花壇で、花と緑のまちづくり活動をしている人達にも出会い、今私はこのグループの仲間でもあります。おかげさまで目一杯、花育てを楽しめています。

ユメリア徳重での花と人との出会いが私の心と体を動かし、今を生きる力になっています。